

今回取り上げた遺跡

台太郎遺跡

盛南地区で一番面積が広い遺跡です。古墳時代～平安時代（およそ1,000～1,300年前）の竪穴住居跡が600棟以上見つっています。他に、中世（およそ400～700年前）の領主の居館跡や土坑墓、江戸時代の建物跡などがみつっています。長い間にわたり人びとが利用していたことがわかります。

野古A遺跡

古墳時代～平安時代（およそ1,000～1,300年前）の集落跡です。大型の住居跡と小型の住居跡数棟から構成される典型的な奈良時代の集落のようすがわかる遺跡です。

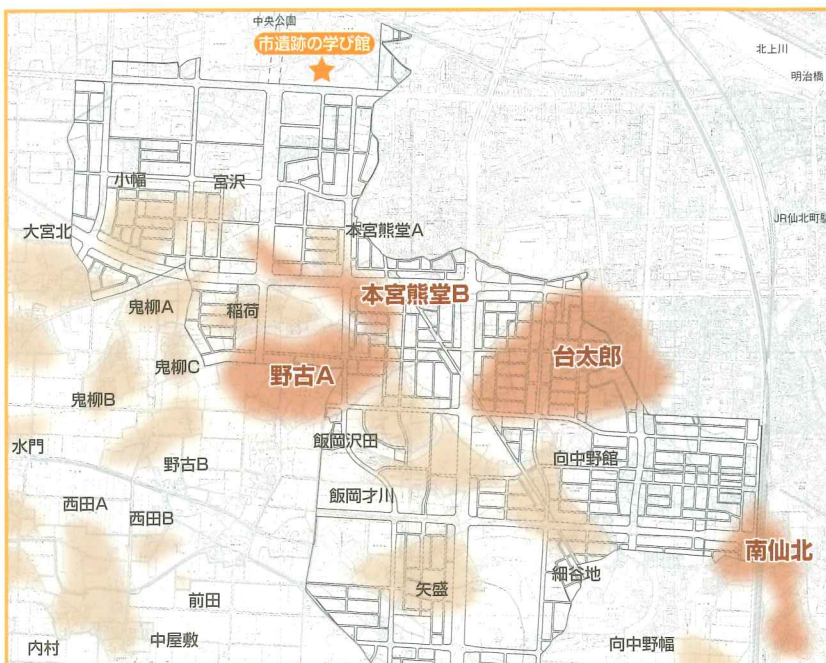
関東地方でよく見られる特徴をもつ土師器の坏が見つっており、地域を越えた人びとの交流を知ることができます。

本宮熊堂B遺跡

奈良～平安時代（およそ1,100～1,200年前）の集落跡です。墨で文字を書いた墨書土器やヘラで文字を刻んだヘラ書土器が多くみつっています。また、伏せて重ねられた土器が見つっています。住居を捨てるときに行なったカマド納めの儀式と考えられます。

南仙北遺跡

盛南地区の東端にある遺跡です。東北本線の東西両側に広がります。今からおよそ1,000年くらい前の平安時代の竪穴住居跡、区画溝、江戸時代の道路跡などがみつっています。



発掘現場を見てみよう!

発掘調査現場では、土の中から土器などがみつかります。土を掘りすめて、土器が見つかった瞬間は感動ものです!

そんな発掘現場をじかに見てみてください。

遺跡の学び館では、発掘調査の状況に応じて、現地説明会を実施しています。また、実際に発掘する発掘体験学習も開催しています。

土器を間近に見てみよう!

発掘調査で見つかった出土品は、遺跡の学び館に展示されています。バラバラになって見つかった土器も、復元しています。

遺跡の学び館では、出土品を常設展示しているほか、さまざまなテーマにそった企画展示も行なっています。

ぜひ学び館で、むかしの人びとが実際に触り、使った出土品を間近に見てください。当時の人々の声が聞こえてきそうですよ。

自分で体験してみよう!

遺跡の学び館では、火おこし、勾玉づくり、土器づくりなど、むかしの生活が体験できるメニューをいろいろと用意しています。

また、発掘体験会、古代の食事づくり教室なども開催しています。

「見るだけじゃつまらない」というあなた!

ぜひ実際に体験してみてください。

※体験学習は内容により予約、材料費などが必要な場合があります。

詳しいことは、遺跡の学び館ホームページ、または直接学び館へお問い合わせください。

もりおか みつけ



現地説明会



発掘調査体験

お問合せ先 盛岡市 遺跡の学び館

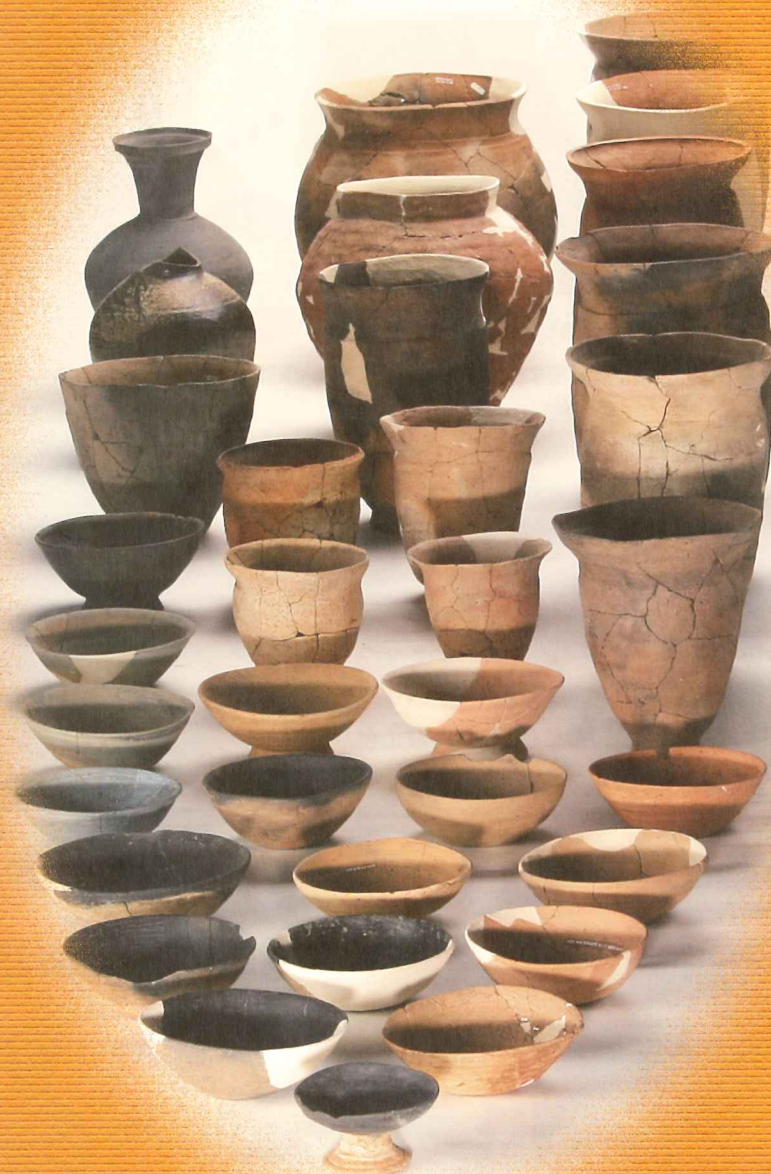
〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13-1
TEL019-635-6600 FAX019-635-6605
URL <http://www.city.morioka.iwate.jp/> (公共施設情報からお入り下さい)
e-mail iseki@city.morioka.iwate.jp

交通案内

- バス【岩手県交通】
- 盛岡バスセンター発 JR盛岡駅前10番乗場経由太田線「先人記念館」行き「子ども科学館前」下車
- JR盛岡駅前10番乗場発 盛南ループ200線(下川原先回り)「総合プール前」下車
- 車/盛岡駅より約10分、東北自動車道盛岡ICより約20分

盛南地区の遺跡

～遺跡から見つかった出土品～



盛岡市遺跡の学び館

遺跡から見つかった出土品



盛南地区の遺跡からは、どんなものが見つかるの？

ふだんの生活で使う土器が多く見つかるんじゃないよ。
 他には、土や鉄で作られた土製品、鉄製品なども見つかるんじゃないよ。
 出土品がどのような場面で、どのように使われたのか、みんなも考えてみようか！



いろいろな土器



台太郎遺跡

煮る

土師器の甕

土師器の甕は、おもに煮炊きに使います。

盛る



台太郎遺跡

土師器の坏(上)と須恵器の坏(下)

坏は、おもに盛り付けに使います。底に台がついているものもあります。

ため 貯める



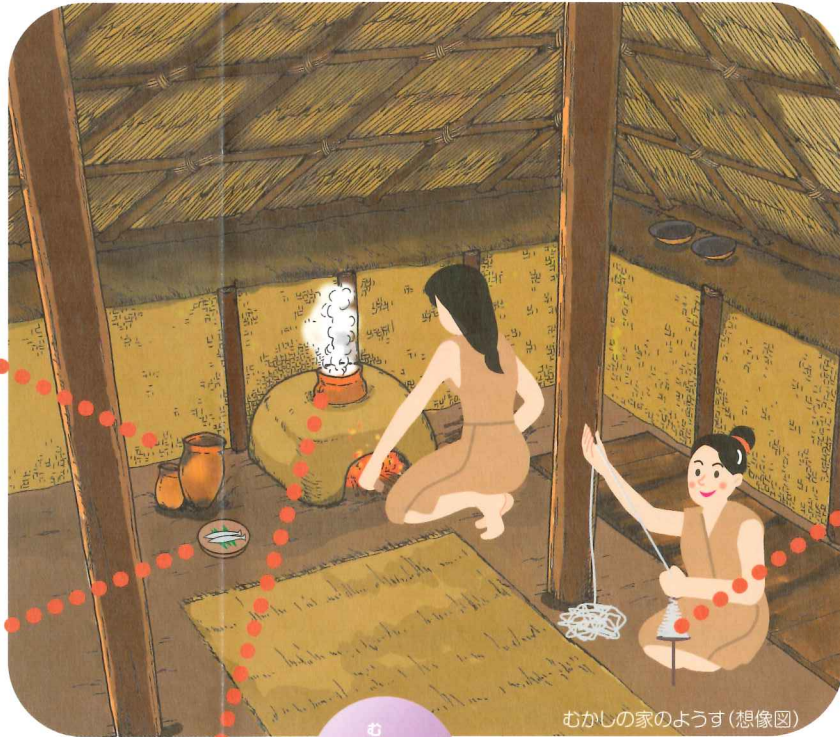
台太郎遺跡



台太郎遺跡(岩手県 所蔵)

須恵器の長頸瓶(左)と平瓶(右)

瓶や壺、須恵器の甕は、お酒や水などを入れます。



むかしの家(想像図)

蒸す

土師器の甑

現在蒸し器にあたります。中にお米を入れた甑を甕の上におき、カマで蒸して調理しました。むかしの人はお米を蒸して食べていたようです。



台太郎遺跡(岩手県 所蔵・(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 写真提供)



須恵器(すえき)と土師器(はじき)

須恵器



土師器



台太郎遺跡

須恵器 灰色のような色の土器です。ロクロを使って形をつくり、カマで焼いてつくります。この作り方は、現在の韓国から入ってきた作り方です。

土師器 赤っぽい色の土器です。カマで焼かずに、野焼きのようにします。縄文土器や弥生土器の流れをくむ作り方です。水がもれないように、坏の内がわに炭を付けて黒くする場合があります。

道具のいろいろ



台太郎遺跡



本宮熊堂B遺跡(岩手県 所蔵・(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 写真提供)

刀子

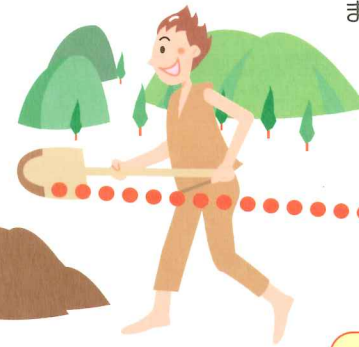
鉄で作られた小型のナイフです。木を削る道具として使いました。



南仙北遺跡

紡錘車

石製(上)と鉄製(下) 紡いだ糸に撚りをかけるときに使います。土、石、鉄などで作られています。



土を掘るようす(想像図)

鋤先

鋤は、むかしのスコップ。土を掘る道具です。先に付ける鉄製品を鋤先といいます。



鋤(すき)



野古A遺跡(岩手県 所蔵)

遺跡からは他にもいろいろなモノが見つかるんじゃないよ。どんなものが見つかるか、みんなも調べてみようか。



須恵器のカマ(想像図)